

多摩区老連

多摩区老連会報 第26号 平成22年3月25日発行

発行代表者/多摩区老人クラブ連合会 藤原 司

今冬は暖冬との予報から一転して寒波到来、雪国は大寒雪に悩まされ、都会では僅かの降雪でも大騒ぎ、雪国で孤立する高齢者の暮らしに心痛み、マスコミで騒ぐほど「地球温暖化」って本当？との思いが残る季節であります。

また国会での「政治とカネ」だけの論戦に、これではいいのか、国民が疑問を持ちながら過ごしている暇な年寄りであります。

会員の皆様には、寒さにもめげず益々の「健康」を多幸をお喜び申し上げます。

また、いつも多摩区老連の事業にご協賛を賜り、深く感謝致して



藤原司会長

「無縁社会」団塊世代にアプ ローチできるか老人クラブ

多摩区老人クラブ連合会 会長 藤原 司

お陰様にて平成21年度の事業や行事も計画通りに無事に進捗し、平成22年度に向けての活動計画も着々と進行しておりますことを、ご報告申し上げます。

昨年はアメリカのサブプライムローンに発したリーマンショックに、世界経済同時不況が起こり、輸出頼みの日本経済は凋落の一途から、やや回復傾向にあると言います。

しかし、国民総生産(GDP)の急低下で世界第2位の座から陥落し、お隣の中国に抜かれ散々な経済状況にあります。

国の予算も収入より多い赤字国債44兆円を発行し、収入を上回る借金の累積は、とくに破産状態といえます。日本国債の9割以上が、国内の預金で消費されて

いるから心配無いと専門家が言うように、私たち国民の取り越し苦労で終わればよいが、ギリシャの財政破綻の報道に接し、前政権からの経済政策に、国民はみんな困惑し、心配しているのです。

国会も「政治とカネ」だけの議論だけでなく、これからの「日本のかたち」を議論し、日本の国家像を、私たち国民に示してもらいたいと願っているものです。

最近「無縁社会」という言葉がマスコミに登場してきました。

無縁とは広辞苑によると、「縁がない」「関係がない」「前世において仏・菩薩に因縁を結んだことのない」と書かれ、仏教語に多く用いられている言葉のようであります。

最近よく目にする言葉で、無縁仏とか、無縁墓地とか、昔は馴染みのない用語でした。戦後の家族制度の変革による、家族制度の崩壊がもたらした結果、このような情けない言葉が氾濫してきたのでしよう。

日帰り白内障手術

寒さも幾分ゆるみ、過ごしやすい陽気が続くようになつてまいりました。旅行に、趣味にと、外での活動をされる方も、楽しい季節になつてきたのではないのでしょうか。

ところで、次のようなことを感じたことはありませんか。「かすみ」がかかったように見えたり、まぶしさを強く感じるようになったり、遠くのほうから手を振る知人がだれだかわかりにくくなったり、メガネの度数を何度もかえなければならなくなったり、二重や三重に物がみえるようになったり、これらは、原因の一つとして白内障が考えられます。

今から二十年前までは、白内障の手術と言えば、一週間入院をして、痛い注射の麻酔を我慢して手術をしてきました。手術時間は三十分から一時間近くにおよび、手術の合併症も多かったため、相当に視力が低下するまでは、手術の適応はないとされてきました。

最近手術装置の技術革新のおかげもあって、すっかり状況は一変し、通常は、点眼麻酔(目薬で麻酔をする)で行うために、麻酔から手術まで痛みを感じませんし、手術時間は十分前後で終了します。多くの場合、日帰りで行うことができますし、翌日には眼帯ははずれ、日常生活に支障がないほどよくみえるようになります。厚くて重いメガネをかけないと見えないほど強い近視や遠視、乱視をもついても、白内障の手術により、それを治すことができるようになっていきます。

白内障で見えないのに、我慢している必要はありません。日帰りでも、短時間で終了する痛みのない手術で、若い時のようにすっきりと見えるようにして、ご友人やご家族と、あるいはお孫さんと、元気にすてきな時間をたくさん過ごしてください。

現代の最高の技術を、あますところなく利用していただき、それがすこしでも、人生の助けになればと考えています。

あんどう眼科 向ヶ丘遊園クリニック院長
安藤 一郎 (日本眼科学会認定 眼科専門医)

一般眼科保険診療:日帰り白内障手術

www.andouganka.com

あんどう眼科 向ヶ丘遊園クリニック

院長 安藤 一郎 (日本眼科学会認定 眼科専門医)

向ヶ丘遊園駅 北口1分

アトラスタワー(23階建)2階 (エレベーター有)

TEL 044-931-0800

